


	基調講演		[会社名・所属(タイトル)] アジア航測株式会社 代表取締役社長	[テーマ] アジア航測のAAS-DX・センシングイノベーションの取組み
	[氏名] 畠山 仁 (はたけやま めぐみ)		【自己紹介】 1996年にアジア航測入社後、DS事業部長等を経て2014年に執行役員。九州支社長、空間情報事業部長、社会インフラマネジメント事業部長を歴任し、2017年に取締役、2020年に常務取締役を経て、2021年12月より代表取締役社長。	【発表概要】 アジア航測の現中期経営計画「明日を共創(つくる)」においては、主要戦略を「AAS-DX」(Asia Air Survey Digital Transformation)として東ね、事業戦略、経営管理戦略の両面からDXに取り組んでいる。特に、事業戦略は、既存事業領域×センシングイノベーションにより、デジタルツインやAR/VR、AI等の先端技術を活用し、流域マネジメント、再生可能エネルギー、まちづくりなどの事業づくりを進めている。 本発表では、当社が進めるAAS-DX及びセンシングイノベーションの全体像、Project PLATEAU(国土交通省)等の具体的な取組みについて紹介する。
	講演1		[会社名・所属(タイトル)] 土地家屋調査士法人トータルネットワークサービス 土地家屋調査士橋本浩伸	[テーマ] 土地家屋調査士と3次元計測データ
	[氏名] 橋本浩伸		【自己紹介】 2000年に土地家屋調査士橋本浩伸事務所を開業、本年6月に土地家屋調査士法人トータルネットワークサービスを設立しました。	【発表概要】 土地家屋調査士という資格をご存知ですか？アンケートを取ったところ、最も知られていない資格であると聞いたことがあります。 土地家屋調査士はどういうことを行うのか。筆界ってなに？建物登記と3次元計測データの活用事例、境界確定と3次元計測データの活用方法などについて、ざっくばらんにお話ししたいと思います。
	講演2		[会社名・所属(タイトル)] ダイダン株式会社・技術研究所 Construction visualizer4D®を活用した現場管理業務への応用とその事例紹介	[テーマ] 写真測量により得られた3Dデータの業務活用事例について
	[氏名] 岡本崇利		【自己紹介】 2015年入社 2015.10～:技術部 2016.12～:設計部 2017.8～:イノベーション本部 技術研究所 【現在の職務】 建設現場の生産性向上を目的として、主にICTを活用した効率的な働き方を推進するための研究開発を担当。	【発表概要】 建設業では、働き手の不足もさることながら、管理業務の負荷の増大に伴い、働き方改革、DXの推進が喫緊の課題とされている。建設業務の効率化を支援するためのICTの発展は大きく進んでいる一方、それらの活用は試行から抜け出せず、普及に至るには未だ課題が残されている。トップダウンのツール先行ではなく、目的意識を持って取り組むためには、社員一人一人のICTに対するリテラシーの向上が必要となる。導入効果を担当者が実感し、少しずつ経験値を積むことがDXの推進には重要であると考えている。「直接業務に活かせる技術」をコンセプトに、当社では画像データを取得し、改修現場の3Dデータを汎用的に作成する仕組み「Construction Visualizer 4D®」を開発した。その手法と現場業務への活用方法について紹介する。

講演3		<p>【会社名・所属(タイトル)】 株式会社空間情報 代表取締役</p>	<p>【テーマ】 3Dスキャナ計測、3Dモデリング、データ活用 －空間情報 高橋の体験談－</p>
<p>【氏名】 高橋 孝明</p>		<p>【自己紹介】 2011年8月、株式会社空間情報を設立。発電プラントの3Dモデル化を主に造船、土木、建築等、様々な業務の実績があります。3Dスキャナとの関わりは、20年前からです。導入をサポートするために様々な工夫や提案が今日にも役立っています。プラントの3Dモデル作成を提案していたところ、その3Dモデリングを担う会社として空間情報を設立しました。現在では、肉厚検査や表面解析などの特殊な案件も行っています。3D点群データは、活用範囲がとて広いです。はやりのVRを含め、その活用を積極的にご提案しています。</p>	<p>【発表概要】 発表内容は、「苦労話」を要望されていますので、思い出しながらお話しさせて頂ければと思います。3Dスキャナの黎明期より携わっています。3D点群データの合成やモデリングについて出来るところがないからと、弊社が業務を担うことになりました。ゼロから立ち上げてきた業務ですので、すべてが苦労話かもしれません。どこにも出来ないことを創意工夫しながら問題を解決していくことに達成感を感じながら、取り組んできました。今日でも同じスタンスで、3Dデータを普通に使う社会になるよう貢献したいと思います。</p>

特別セミナー 「メタバースに飛躍する建築3D & シミュレーション」

ファシリテータ



阪田 弁
環境シミュレーション



沼倉正吾
Symmetry Dimensions



四戸俊介
日建設計



伊藤久晴
BIMプロセスイノベーション